

▶ 〈02〉 掘削機械

20-〈03〉-04	コマツ 〈オフロード法 2014 年基準適合〉 ホイールローダー 「WR12-8」	'20.9 発売 新機種
------------	---	-----------------

窒素酸化物 (NO_x) と粒子状物質 (PM) の排出量を大幅に低減し、オフロード法 2014 年基準に適合したホイールローダーである。

リーチ機構の採用により、3m を超えるダンピングクリアランスを実現することで、積込高さが求められる産廃用ダンプへの積み込みの容易化を図っている。

また、パラレルリンク機構を採用により、生コン等液状の物も容易に運搬できる等、作業の高効率化を図っている。

前後進切り換えスイッチを備えたマルチファンクションモノレバーを標準装備し、1 本のレバーでブーム、バケット、リーチアームの操作が可能である。さらに、車両後方に視認用カメラを標準装備し、7 インチの液晶ディスプレイモニターで後方の安全確認を支援する。

標準仕様車とあわせて設定した産廃仕様車は、プリクリーナー、アンダーガード、折りたたみ式ミラーの採用により、異物の目詰まり、かみこみ、吸入などによる破損を防止し、ワイドコアラジエーターの採用により清掃メンテナンスの容易化を図っている。



写真—1 コマツ ホイールローダー WR12-8

問合せ先：コマツ コーポレートコミュニケーション部
〒107-8414 東京都港区赤坂 2-3-6

表—1 主な仕様

	WR12-8
運転質量 / 機体質量 (t)	8.955/6.420
エンジン定格出力 ネット (JIS D0006-1) ^{*1} (kW/min ⁻¹ [PS/rpm])	73.1/2,200 (99.4/2,200)
バケット容量 (m ³)	1.4
最小回転半径 (最外輪中心) (m)	5.625
全幅 (バケット幅) (m)	2.390
全高 (m)	3.035
全長 (m)	6.520
ダンピングクリアランス ^{*2} (m)	3.140
ダンピングリーチ ^{*2} (m)	1.480

※1：冷却ファン最低回転速度時の値

※2：45°前傾、ボルトオンカッティングエッジ先端まで

【公表価格】18.55 百万円 *工場裸渡し消費税抜き

新機種紹介

▶ 〈06〉 基礎工事機械

20-〈06〉-01	アイチコーポレーション ポールマスター D50B1FS	2020年5月 発売 新機種
------------	-----------------------------------	----------------------

主に建柱作業に使用される穴掘建柱車である。最大掘削深さは5.20 mに達する。

モーメントリミッター（定格荷重制限装置）を標準装備とし、クレーン作業における定格荷重超過を規制する。

定格荷重の90%以上になると警報を発し、100%になるとクレーン作動を自動停止させることで、車両の転倒や破損リスクの低減を図っている。

従来機種ではアウトリガーを前後左右ともに1/2以上張り出さないとクレーン作業が行えなかったが、モーメントリミッター装備により、最小張出でもクレーン作業が可能である。

また、アウトリガー張幅段階を2段階から4段階とすることで、車両占有幅が大きく取れない現場など、作業環境に応じたクレーン作業が可能である。

液晶モニターには、定格荷重、実荷重、作業半径、負荷率のほか、旋回・起伏角度やアウトリガー、ブームの状況等が表示され、安全作業をアシストしている。

表-2 ポールマスター D50B1FS 主な仕様

型式	D50B1FS
最大定格荷重 (t)	2.9
クレーン容量 (t × m)	2.9 × 3.6
〔作業半径〕クレーン (m)	0.9 ~ 11.8
〔作業半径〕穴掘 (m)	4.1 ~ 11.4
最大掘削深さ (m)	5.20
オーガートルク (N・m)	6,470
消費税抜標準価格 (百万円)*	16.80

※表中の標準価格はオプション価格を含まず。

問合せ先：(株)アイチコーポレーション経営企画部広報課
埼玉県上尾市大字領家字山下 1152 番地の 10



写真-2 ポールマスター D50B1FS

新機種紹介

▶ 〈19〉 建設ロボット, 情報化機器, タイヤ, ワイヤロープ, 検査機器等

20-〈19〉-07	極東開発工業 乾燥コンテナシステム Kantainer (カンテナ) JR04-70N	'20.2 発売 新機種
------------	---	-----------------

木質チップ等の乾燥が可能な乾燥コンテナシステムである。再生可能エネルギーとして注目されている木質チップボイラーやバイオマス発電の燃料となる木質チップを簡単に乾燥させることができる。設備廃熱などの未利用熱を熱源として使用することも可能なため、脱化石燃料化の推進にも貢献する。

デッキが2重底構造になっており、コンテナ後方から投入した温風は2重底部全体に行き渡り、温風の流れに伴いコンテナ下方から順に乾燥が進行する。また、バッチ式乾燥のため乾燥中の攪拌作業等は不要である。

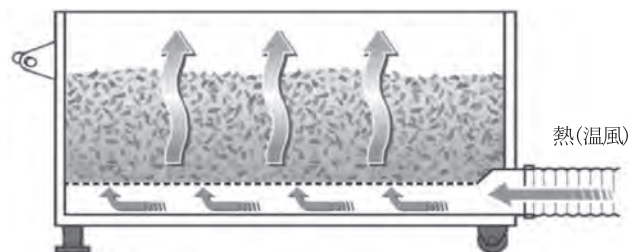
脱着コンテナ車と併用することで従来の乾燥設備使用の際に必要なであった木質チップの詰め替え作業をすることなく乾燥・運搬が可能である。さらに運搬先での排出作業は脱着コンテナ車のダンプ機能で簡単に行うことができ、コンテナのまま木質チップの貯留もできる。

また、コンテナはロードセルシステムにセットするだけで積載重量の測定ができる。乾燥過程における重量変化量から算出した木質チップの含水率をリアルタイムに確認できるため、乾燥チップの品質管理と品質向上を同時に行うことができる。

乾燥対象は木質チップのみに限らず、同じくバイオマス燃料として利用される廃菌床の乾燥や廃棄物の減容・軽量化を目的とした乾燥など様々な分野への活用が可能である。



写真—3 極東開発工業 JR04-70N Kantainer



図—1 Kantainer 乾燥模式図

問合せ先：極東開発工業(株)

技術本部 開発部

〒 673-0443 兵庫県三木市別所町巴 2

表—3 JR04-70N の主な仕様

内法長	(mm)	3,600
内法幅 [上側]	(mm)	1,900
内法幅 [下側]	(mm)	2,010
有効内法高	(mm)	1,500
2重底高さ	(mm)	100
容積	(m ³)	10.3
重量	(kg)	1,200
最大ブロウ風量	(m ³ /min)	120
価格	(百万円)	5.85